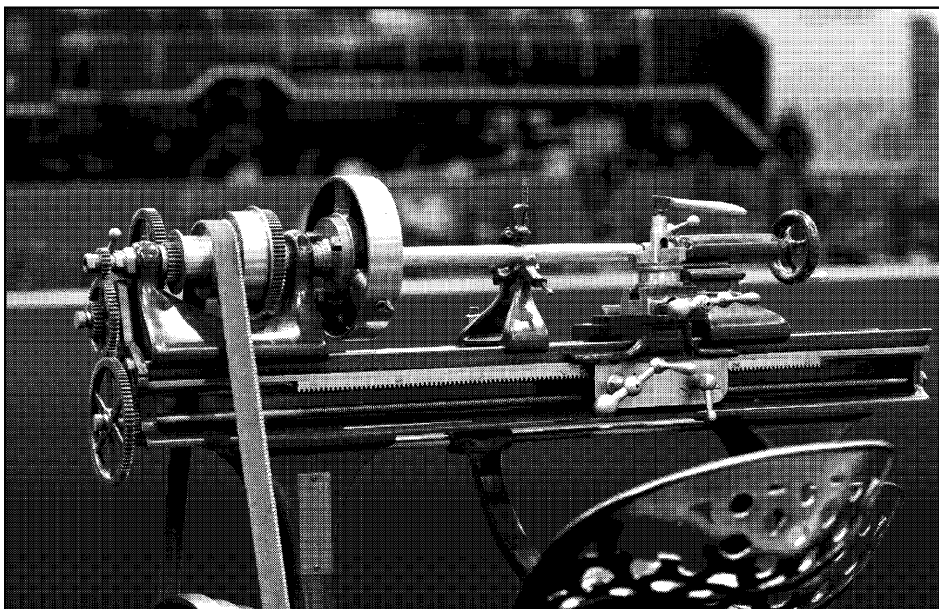


機械の日

8月7日

きょう「機械遺産」認定式／記念講演

機械を作る
機械って
なに？



M ヤマザキ マザック 工作機械博物館
THE YAMAZAKI MAZAK MUSEUM OF MACHINE TOOLS

入館料：一般 ¥500、高校生・大学生 ¥300、小学生・中学生 ¥200
※学校からの団体申し込みの場合は無料
休館日：月曜日、年末年始（月曜日が祝日の場合、火曜日が休館日）
開館時間：10:00～16:30（最終入場は16:00）

日本機械学会は8月7日を「機械の日」、8月1日から7日までの1週間を「機械週間（メカウィーク）」と、2006年に制定した。機械技術がどのようにして社会や産業の健全な発展に役立てるかを広く社会と考えるとともに、機械技術者の果たす役割を浮き彫りにして社会の一層の理解を得るのが目的。機械の日や機械週間に合わせて、関連イベントや絵画コンテスト、記念講演、機械の日や機械週間の行事が行われる。

技術者—知の創造と活用

七夕は技巧上達を祈念する中国の儀式「乞巧奠」に由来し、奈良時代に日本に伝来した。「たなばた」の読みはこの日に神にささげる御衣を「棚機」という当時の織機で織り上げたことが由来とされており、七夕と機械には大きな関係があることが分かる。このような故事を鑑みて、日本機械学会は七夕の中層である8月7日を機械の日と定めた。

モノづくりのための工作機械や、農業用機械、建設機械、食品機械などの生産用機械、輸送機械、生活を楽しくするサービス用・娯楽用機械など、さまざまな機械がわれわれの生活を支えている。機械の精度はもろろん、環境対応、自動化、コストパフォーマンスの良やなど、多様な面での

進化が求められ続けている。機械の日や機械週間は、こうした機械技術について考える良い機会となっている。

「2024年度機械遺産」認定式と機械の日の記念講演が、7日17時から東京都千代田区のリテラスコモンで行われる。機械遺産は、歴史に残る機械技術関連遺産を大切に保存し、文化的遺産として次世代に伝えることを目的に、主として機械技術に関わる歴史的遺産を日本機械学会が認定する。

今回は①平山萬年堂の「新井式回転抽籤器」②スギノマシンの三連プランジャー式高圧水発生ポンプ「スギノポンプ1号機」③酒井重工業のマカダムローラー「サカイR1」④共和電業のひずみゲージ「K-

1型」⑤ニユースパーク（日本新聞博物館）の石川式マリノニ型輪転機「折式新聞印刷機」⑥ヤマザキマザックの米国輸出を果たした数値制御（NC）旋盤「MTC-2500R」が選ばれた。

17時45分からはツバメイ・シダストリ取締役CTOの石井啓範氏による記念講演①「熱意が未来を動かす！搭乗型ロボット『アーカックス』開発の舞台裏」が、引き続き18時35分からはS W d e s i g n代表取締役兼プロダクトデザイナーの和田智氏による記念講演②「デザイナーとエンジニアが出会う場所／Where designers and engineers meet」が開催される。会場では、幼児から小学生までを対象に「夢の機械

・キカイ、未来の機械・キカイに関する絵画」をテーマに募集した「第14回2024年度「機械の日・機械週間」絵画コンテスト」の優秀賞作品が展示される。

機械週間は、紙とプラスチックを用いたモデルロケットを製作し打ち上げる「モデルロケット教室」が千葉工業大学新習志野キャンパスで開かれたほか、神戸港の歴史や船の魅力、仕組みについて学べる博物館「神戸海洋博物館」と同博物館内にある、陸・海・空の代表的な製品を見て触れることができ

る川崎重工業グループの企業博物館「カワサキワールド」の見学など、全国各地で行われた。

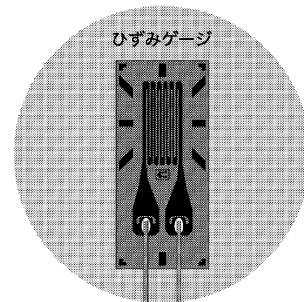
機械技術—産業・社会 発展に貢献

お客さま、
ちょっとひずんで
いますね。



ビルや高速道路、橋、ダムといった構造物・インフラから自動車や家電などの工業製品にいたるまで、私たちを取り巻く社会と暮らしの安全を、共和電業の計測技術が支えています。その主役は「ひずみゲージ」。外力等によって物体に生じる微小な変形を、この僅か数ミリのセンサが電気信号に置き換えて計測、構造物やモノの強度・劣化具合等を把握することで、安全性確保につなげています。私たちはこのひずみゲージのパイオニア。各種センサから計測器、試験機器・システム開発まで、共和電業は「はかる技術」で社会と暮らしの安全を支え、安心できる未来づくりに貢献しています。

外からでは
わからないビル・
構造物のひずみを
「ひずみゲージ」が
しっかり検出



株式会社 共和電業

〒182-8520 東京都調布市調布ヶ丘3-5-1
TEL.042-488-1111 (大代表) FAX.042-481-3258

<https://www.kyowa-ei.com/>

2024年度「機械遺産」認定企業

共和電業

ひずみゲージ
K-1型



共和電業は1950年に運輸省(現国土交通省)運輸技術研究所からひずみゲージの試作依頼を受け、翌年に「赤いフェルトのついたひずみゲージK-1型」として日本で初めて商品化に成功した。実船の応力測定で日本で最初に用いられ、強度解明に寄与した。

同社は創業以来、75年に及ぶ豊富な経験と技術をもとに、数多くの高性能なひずみゲージやセンサー、測定器、計測システムを自社グループで開発・製造している。顧客のさまざまな計測ニーズに応え、社会と人の安全を実現し、安心な未来づくりに貢献する。

ヤマザキマザック

米国輸出を果たした
NC旋盤「MTC-2500R」



ヤマザキマザックの前身である山崎鉄工所は、1968年に数値制御(NC)旋盤「MTCシリーズ」を開発。国産NC工作機械として初めて米国に輸出した。

今回機械遺産に認定された「MTC-2500R」は70年製で、米国の航空宇宙産業で活躍した。2008年に日本へ引き取られ、熟練工によって再整備された。現在はヤマザキマザック工作機械博物館(岐阜県美濃加茂市)で動態展示されている。NC工作機械の原理と構造を学ぶための機械技術教育資料として高く評価されている。